



僕とお嬢様と
ハートブレイ
クカード

僕とお嬢様3

zen-aku

公園通り

僕と“お嬢様”が公園通りを歩いていた。“お嬢様”と言うのは僕の隣を歩いている女の子のニックネームだ。

ちなみに、“お嬢様”が名付けた僕のニックネームは“のっくん”。“お嬢様”いわく、「のび太くんに似てるから」だそうだ。

現在、このニックネームは、僕と“お嬢様”の間でだけ使われている。

“お嬢様”が僕の肩をつついた。

「あの子を見て」

「昨日の子だ」

公園に小学生の女の子と、小学生の男の子たちがいた。小学生の女の子は、小学生の男の子たちに怒りをぶちまけていた。

「あれは、からかわれて、怒っているんだよ」

「うん。でも、僕らに何かできる？」

小学生の男の子たちが走っていなくなった後、“お嬢様”が小学生の女の子に近づいた。

「これをあげるよ」

「何もないよ」

確かに、“お嬢様”の手には何もない。でも、“お嬢様”は話し続ける。

「これはね、ハートブレイクカードって言うカードだよ。キラキラしたハートの模様が描いてあるんだ」

「ふうん」

小学生の女の子は、“お嬢様”のごっこ遊びに乗ってあげるようだ。

「このカードはね、イライラしてチクショーって思ったときに、ピリッって一枚破るんだよ。明日から、この公園の椅子の下に、毎朝二十枚、隠しておいてあげるね。だから、毎朝、補充してね」

「わかった」

僕と“お嬢様”は、小学生の女の子と別れた。

別の日

僕と“お嬢様”が公園通りの近くを歩いていた。

「“のっくん”、見て」

「あの子だ」

あの時の小学生の女の子が、公園の方に走って行く。後ろから小学生の男の子たちが追いかけていく。

「もしかして、今日の分のハートブレイクカードを使い切っちゃって、補充に行くのかな？」

「たぶん、そうね。二十枚じゃ、足りなかったのね」

まだ、公園まで距離があるけど、小学生の女の子が止まった。さっきまでと、感じが違う。

ちょっとしゃべって、小学生の男の子たちは、興ざめしたようにいなくなった。

小学生の女の子が、僕と“お嬢様”のところへやってきた。

「お姉さん、お兄さん、あたし、カード全部使っちゃっても、怒るのがまん出来たよ」

「えらいね」

“お嬢様”が、にこにこした。

「えらいね」

僕も、にこにこした。

僕とお嬢様とハートブレイクカード

<http://p.booklog.jp/book/124684>

著者 : zen-aku

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/zen-aku/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/124684>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト